

令和 8 年

第 1 回（3 月）波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波佐見町議会

通告順位	1	通告者	6番 岡村達馬 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1 町の施設の管理・運営について</b></p> <p>町の施設には、産業や観光振興に必要なものが多くある。しかし、整備はしたものの稼働率や収益が低調で、今後も利用増が見込めないものも見受けられる。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 町が所有する施設(観光協会等への委託分を含む)のうち、利用料や賃貸料などの収入が発生しているものはいくつあるか。また、それら各施設の収益は投資額に見合ったものとなっているか。</p> <p>(2) 鴻ノ巣公園内のキャンピングフォレスト波佐見や西前寺橋横のミナミ田園パークの利用状況と収益について、現在までの月平均の利用率と収入はどう推移しているか。また、キャンプ施設は耐用年数が短いと聞かすが、整備費用はいくらだったのか。</p> <p>(3) 鬼木郷の宿泊施設の利用状況の詳細は。また、これまでに投資した額とその費用対効果は期待できるのか。更に、今後も整備計画は検討されているのか。</p> <p><b>2 職員不祥事への取り組みについて</b></p> <p>波佐見町職員の不祥事が続く。この15年余りの間に警察事案は6件に上っている。一つの自治体における発生件数としてはあまりにも多すぎる。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 懲戒免職が4件、依願退職が2件となっている。これほどの事案を重ねながら、職員及び執行部には過去の教訓に対する自覚や、真剣に取り組む姿勢が感じられない。職員への教育や指導はどうなっているのか。</p> <p>(2) 職員倫理条例や施行規則などは作成されているが、職員に浸透していないように感じられる。不祥事が後を絶たない背景をどうとらえ、認識しているのか。</p> <p>(3) 数年ごとに発生する不祥事に対し、更なる対策や対応が必要と思うがどうか。</p>		

質問の相手	町 長

通告順位	2	通告者	10番 田添有喜 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1 農業振興について</b></p> <p>地域農業経営基盤強化促進計画いわゆる「地域計画」が法定化され、地域での話し合いにより、地域の目指すべき将来の農地利用の姿を明確化した計画が公表されている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 有害鳥獣被害防止対策の現状はどうか。</p> <p>(2) 農業従事者の高齢化や後継者不足に対しては、今後どのような施策を勧めるのか。</p> <p>(3) 耕作放棄地の対策は、今後どのように勧めていくのか。</p> <p><b>2 教育行政について</b></p> <p>本町における教育支援策は、他町と比較しても多額の予算が投じられている。しかし、費用対効果を考えた場合、課題は多い。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 大きな教育課題に学力向上がある。これまで実施した学力向上の具体的施策を、教育委員会としてはどのように評価しているのか。</p> <p>(2) 毎月 1 回実施されている「あいさつ運動」の取組みは、どのように評価しているのか。</p> <p>(3) スクールバスの運行の課題と今後の運行計画をどのように考えているのか。</p>		

質問の相手	町 長・教育長

通告順位	3	通告者	5番 岡村 真由美 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1 農業振興について</b>  本町の基幹産業の1つである農業においても、後継者不足は深刻な問題である。町はこれまで数々の支援策を立案し、講じてきた。  そこで、次のことを問う。  (1) 農業委員会の業務内容の1つに「農業振興計画の樹立及び実施」が明記されている。この具体的な取り組みは。  (2) 町内の梨農家及び茶農家の現状と、今後の展望をどう捉えているか。  (3) 碾茶の生産については、何らかの支援を予定しているか。</p> <p><b>2 子育て支援について</b>  元気なまちづくりには、産業の活性化と並行して、子育て支援の推進も欠かせない。  そこで、次のことを問う。  (1) 「こども誰でも通園制度」とは何か。また、どのように推進していく計画か。  (2) 子育て支援センター「きしゃぽっぽ」の組織体制と業務内容はどうなっているか。  (3) 「こども家庭センター・よりそっと」において実施されるべき事業が、学童クラブの待機児童対策事業と並行して行われている。円滑に運営できているか。  (4) 南小学校区に放課後児童クラブが新たに設置される計画である。現在の進捗状況はどうか。</p>		

質問の相手	町 長・教育長・農業委員会会長

通告順位	4	通告者	9番 福田勝也 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1 地域公共交通について</b></p> <p>高齢者や学生などの交通弱者にとって、地域公共交通はなくてはならない移動手段であり、その整備や確保、利便性の向上が求められる。</p> <p>しかし、利用者の減少や運転手不足の影響により、路線バス「川棚内海線」が廃線になり、令和7年4月からは代替交通として「かわたな・はさみタウンバス」が運行開始された。</p> <p>また、予約制乗合交通「のんなっせ号」についても制度内容を見直し、現在実証運行が行われているほか、一般タクシーや介護タクシーも町民の重要な交通手段となっている。</p> <p>公共交通は人命を預かる業務であることから、安全な運行体制の構築と危機管理の徹底が強く求められる。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1)「かわたな・はさみタウンバス」の運行開始から約1年が経過し、また「のんなっせ号」も制度改正から約5か月が経過したが、利用者や町民からは利便性などに関してどのような評価が得られているか。また、利用者数の推移はどうか。</p> <p>(2) 委託事業者における安全・運行管理の状況をどのように把握し、指導を行っているのか。</p> <p><b>2 窯業の支援策について</b></p> <p>本町の基幹産業である窯業の発展は、雇用創出や観光振興、さらには「ふるさと応援寄附金」による財源確保など、行政サービスの向上に大きく影響を与えている。</p> <p>しかし、その経営環境は、生地業をはじめとする後継者問題や担い手不足に加え、燃料費や人件費、原材料費の高騰など、様々な問題や課題が山積している。</p> <p>現状を放置すれば、将来的に産業としての存続が危ぶまれるだけでなく、行政サービスの質の低下も予測されることから、早急な対策が必要と考える。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) これまで窯業界の課題や要望等に対し、町としてどのような対策や支援を行ったか。またその施策からどのような効果が得られたのか。</p> <p>(2) これまでの「ふるさとづくり応援寄附金」の累計金額は。また、そのうち返礼品に陶磁器を申し込まれた寄附金の累計金額は。</p> <p>(3) 窯業界を取り巻く経営環境の問題点や課題点について、今後どのような対策を考えているか</p>		

質問の相手	町 長

通告順位	5	通告者	8番 城 後 光 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>前川町政1期3年半の総括と町民福祉の向上について</b></p> <p>本年9月の任期満了を控え、前川町長の1期目4年間の集大成について問う。</p> <p>公約として掲げられた各政策の成果が、特定の分野に留まることなく、広く全町民の暮らしにどう還元されたのか。</p> <p>厳しい財政制約下において、施策のバランスをいかに保ち、現場の課題解決に繋げてきたのかについて、次のことを問う</p> <p>(1) 波佐見焼ブランドは一定の確立をみたものの、他産地の追従が激しい。一方で、産地を支える生地業等の製造現場や流通機能の維持が、波佐見焼産業界喫緊の課題である。</p> <p>この3年半、ブランド化の恩恵を現場までどう波及させ、後継者育成を含む産地基盤の構築にどう繋げたのか。</p> <p>(2) ふるさと応援寄附額の減少や扶助費の増大など本町の財政環境は厳しさを増している。</p> <p>こうした制約下において、注力した子育て支援と、農林業の振興、高齢者福祉、インフラ整備といった他施策との均衡をどう図ってきたのか。</p> <p>また、4年前との予算配分の変化と、持続可能な財政運営の考え方はどうか。</p> <p>(3) 役場のDXが進む一方で、自治会は加入率の低下や負担増により、維持していくことが困難な状況にある。</p> <p>行政のデジタル化による余力を、空き家対策や移動手段確保といった住民に直面する「アナログな課題」にどう振り向け、地域支援のあり方を変革してきたのか。</p> <p>1期目の総括とともに、任期最終年度への決意は。</p>		

質問の相手	町 長

通告順位	6	通告者	3番 澤田昭則 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1 持続可能な観光まちづくりについて</b></p> <p>産業・交流・観光の相乗効果を生むクラフトツーリズムの推進は、本町が誇る波佐見焼文化の継承のみならず、産業の次世代を担う人材育成にも直結するものである。</p> <p>こうした交流型観光を実現するためには、観光施策と地場産業との更なる強固な連携、及び観光基盤の整備が不可欠である。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1)「観光客125万人」という目標達成に向け、多角的なアプローチによる持続可能な観光スタイルを確立すべきと思うがどのように考えるか。</p> <p>(2)「やきもの公園」周辺を広域的な一体エリアとして捉え、利便性向上と滞在・交流を促すイベント展開を軸とした観光拠点としての整備をする考えはないか。</p> <p>(3)地域産業の活性化に向け「地域一体型オープンファクトリー」(工場や生産現場の一般公開・見学)の開催について支援する考えはないか。</p> <p>(4)歴史・観光資源であり交流拠点でもある「波佐見ミュージアム」の役割を再定義し、集客を最大化させるための展示戦略や持続可能な管理運営方針について、具体的な施策をどう考えているか。</p> <p><b>2 物価高対策プレミアム商品券事業について</b></p> <p>現在、予定されているプレミアム商品券(販売型)は、経済波及効果が期待されている一方、購入時にまとまった現金が必要なため、生活に困窮している世帯や買い控え層にとっては購入のハードルが高いとの声がある。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>未購入者が生じることで、町民間に支援の不公平感や経済効果の偏りが発生する懸念がある。すべての町民が等しく支援を実感できる仕組みづくりについて、どのように考えているか。</p>		

質問の相手	町 長・教育長

通告順位	7	通告者	2番 脇坂正孝 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1 農業用施設の管理について</b></p> <p>施政方針では、「食糧生産の基盤を支える農業用水路やため池といった施設は、農業生産活動に不可欠な存在です。・・・長寿命化と機能強化を計画的に推進します。」と示された。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 具体的な機能強化についての推進策は。</p> <p>①農業用水路 ②ため池</p> <p>(2) 岳辺田の圃場に農業用水を供給する川棚川の片淵堰(川内郷)は、土砂等の堆積により水深が浅くなり、取水量が減少し水田耕作に支障をきたしている他、貯水槽には亀裂が生じており崩壊も危惧されている。</p> <p>安定した農業用水確保のためには、浚渫や貯水槽の早期修繕が必要と思うが、どう対応するのか。</p> <p><b>2 放課後児童クラブについて</b></p> <p>施政方針では、「南小学校区の放課後児童クラブ開設に向け準備を進め、放課後等の児童の居場所を確保してまいります。」と示された。</p> <p>そこで、次ことを問う</p> <p>(1) 開設の予定時期は。 (2) 施設の場所は。 (3) 児童の定員は。 (4) 施設の運営は。</p> <p><b>3 総合文化会館について</b></p> <p>施政方針では、「総合文化会館の大規模改修では・・・開かれた学びと憩いの拠点としての再生を図ります。」と示された。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 大規模改修の対象となる範囲(箇所)はどこか。また、その面積はどの位か。 (2) 図書館の改修計画はどうなるのか。 (3) 総合文化会館の休館日は、日曜日や国民の祝日、8月13日から16日まで、などの規則の定めがある。利用が制限されることから見直しが必要と考えるがどうか。 (4) 利用効果をより高めるため、職員の配置が必要と思うがどうか。</p>		

質問の相手	町 長・教育長

通告順位	8	通告者	11番 北村清美 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1 「波佐見中尾皿山と鬼木棚田の文化的景観」について</b></p> <p>中尾郷は、登り窯やレンガ煙突、窯元住宅など、近世以降の窯業と住まいの変遷を色濃く伝える窯業集落である。一方、隣接する鬼木郷は、伝統的な水利システムと石積みによる棚田を受け継いできた農業集落である。両集落は労働力や下肥(しもこえ)、梱包用の藁(わら)などを互恵的に融通しあいながら発展を遂げてきた。このような密接な関係を持つ集落は全国的にも稀であり、文化的景観として重要な価値を有している。</p> <p>施政方針では「この保存計画の答申に伴い申請選定後は、中尾・鬼木両地区の文化的景観を活かした地域づくりを進め、新たな波佐見町の魅力発信に繋げていく」と示されている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 選定までの今後の流れと 50 年・100 年を見据えたプラットフォーム(課題解決の場)はどうか。</p> <p>(2) 地元住民の認知度、及び理解と協力はどうか。</p> <p>(3) 波佐見周遊の観光拠点としての取組はどう考えるか。</p> <p><b>2 「一人暮らし」世帯について</b></p> <p>全国的に人口減少が進むなか、その要因の一つに「単身世帯増加」がある。国・県・本町においても、子どもや高齢者政策などの対策に追われ、単身世帯への対策が十分とは言えない現状がある。この課題を真剣に受け止め、将来的に「夫婦で波佐見に住みたい。夫婦で働きたい。夫婦で子育てしたい。」という世帯を増やすことが急務と考える。限られた資源を「独身現役世代」にも投資する。これこそが、現在、税金や社会保障費を支えている現役世代への正当な還元であり、必要な政策と考える。もし、この人たちがこのまま高齢者になると様々な課題が発生することが予想され、社会の仕組みが変わり、住民サービスの維持すら困難な衰退の一途をたどる恐れがある。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>本町の実態と国・県はもとより、本町の「おひとりさま対策」はどのように考えているか。</p> <p><b>3 職員の働き方について</b></p> <p>施政方針では「町民の皆様が安心して暮らせるよう、組織の活性化並びに職員の資質向上を図る」と示されている。</p> <p>そこで、次のことを問う</p> <p>(1) 次世代を担う若手職員の採用と定着状況は。</p> <p>(2) 職員の資質向上に向けた育成をどのように考えているか。</p>		

質問の相手	町 長・教育長

通告順位	9	通告者	7番 三石 孝 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p><b>1 窯業支援について</b></p> <p>昨年8月、物価や人件費の高騰から陶土の値上げが実施された。それに対し本町と長崎県は、政府の物価高騰重点支援交付金を活用し本年12月まで陶土の値上げ分について支援を行うとされた。</p> <p>このことは、急場をしのご策としては効果あるものと思うが、従来からの課題の解決には至っていないように思われる。</p> <p>そこで、支援の在り方について次のことを問う。</p> <p>(1) 従来への支援はどうか。</p> <p>(2) 人材育成支援はどうか。</p> <p>(3) 生地組合に対する支援はどうか。</p> <p><b>2 波佐見町公共施設等総合管理計画について</b></p> <p>昨年の12月議会において、建築物や水道施設に関する計画は、順調に進められていると判断できた。しかし、町道については、納得のいく回答がなかったことから再度質問を行う。</p> <p>そこで、町道における維持管理の現状について次のことを問う。</p> <p>(1) 計画の基礎となるものはどうか。</p> <p>(2) 問題や課題はどうか。</p> <p>(3) 計画的な実施状況の判断基準はどうか。</p> <p>(4) 「波佐見町道路ストック総点検」の実施状況はどうか。</p>		

質問の相手	町 長・教育長